

学校教育目標	夢に向かって、考え・実践するたくましい子どもの育成
育成を目指す資質・能力	○夢や目標をもつ力 ○考え・実践する力 ○心身のたくましさ

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>○県学テや全力学テでは、学校全体の平均正答率はほとんどの項目で目標値や県平均正答率等を上回っているが、個別に見ると、平均正答率に達していない児童の割合も高く、学力の二極化が見られた。</p> <p>○単元末テストでも低学力層(60点以下)の児童が3年生以上で10%前後いることから、校内において学力の二極化が進んでいると考えられる。</p>	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>○質問紙調査において、分からない問題等があった時、先生や友達に聞く児童の割合が県や全国の割合より低い。</p> <p>○課題解決に向け、自分で考えて取り組める児童もいるが、自分の考えがもてず、指示待ちになる児童もおり、学習態度においても二極化が進んでいると考えられる。</p>
	<p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <p>○学校評価アンケート(児童)において、「授業は分かりやすい」の肯定的評価は95%であった。</p> <p>○学校評価アンケート(児童)において、「家や図書館の本を読んでいます」の肯定的評価は88%であった。</p> <p>○学校評価アンケート(児童)において、「家庭学習(学年×10分+10分以上)ができています」の肯定的評価は88%であった。</p>	
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <p>○学校評価アンケート(教職員)において、「分かりやすい授業にするために、板書の構造化及び新大分スタンダードなど、指導の工夫や改善に取り組んでいる」の肯定的評価は94%であった。</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <p>○学校評価アンケート(教職員)において、「『家庭学習のてびき』などを活用し、家庭学習の習慣化を図っている」の肯定的評価は94%であった。</p> <p>○学校評価アンケート(教職員)において、「図書館に行く機会を設けたり、家の本を読むことを推奨したりしている」の肯定的評価は94%であった。</p>	

学力に関する達成指標

全教科の単元末テストの学期平均における低学力層(60点以下)を5%以下にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の具体的な取組	<p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>主体的・対話的な交流活動の工夫を通して、自ら考え、伝え合い、共感し合う力を育成する。</p> <p>○自分の考えをもつことができる導入の工夫</p> <p>○伝え合いを活性化する発問と場の工夫</p> <p>○子どもの思考の高まりが見える板書の工夫</p> <p>○立場をもつ子(コミュニケーション面・学力面)の変容をもとにした授業検討</p>	
	<p>〈取組内容〉</p> <p>○ユニバーサルデザインの3視点(焦点化・視覚化・共有化)を意識した授業に取り組む。</p> <p>○児童が意欲的・協働的に取り組める課題を設定する。</p> <p>○伝え合い活動の目的を明確にし、教え合い及び学び合い活動の充実を図る。</p> <p>○算数科の学習の充実を図る。</p>	<p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <p>○家庭における学習習慣の確立に取り組む。</p> <p>○「あけのSNS三原則」に取り組む。</p> <p>○ポプラタイム(総合的な学習の時間)において学校に協力する。</p>
	<p>〈取組指標〉</p> <p>○板書の構造化及び新大分スタンダードに取り組む教職員100%。</p> <p>○毎時間、ユニバーサルデザインの3視点を意識した授業に取組、伝え合い・教え合い・学び合いの活動を授業に位置付ける。</p> <p>○年1回以上、互見授業を実施し、教員相互による授業改善を促進する。</p>	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <p>○「家庭学習のてびき」に基づいた学習時間・内容に取り組む。</p> <p>○家庭・地域の方や団体が、どの学年においても年1回は協力する。</p>
	<p>〈検証指標〉</p> <p>○学校評価アンケート(児童)において、「授業は分かりやすい」の肯定的評価95%以上。</p> <p>○学校評価アンケート(教職員)において、「分かりやすい授業にするために、板書の構造化及び新大分スタンダードなど、指導の工夫や改善に取り組んでいる」の肯定的評価100%。</p>	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <p>○学校評価アンケート(保護者)において、「子どもは(『家庭学習のてびき』等を参考にして)家庭学習が習慣化できている」の肯定評価90%以上。</p>
		<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <p>○スキルタイム時(週2回)に低学力層児童に対して、学級担任外教員と連携して算数科の補充指導を実施する。</p> <p>○「家庭学習のてびき」の活用について、学年通信や学級懇談会等を通して定期的に保護者に呼びかけ、家庭学習の充実を図る。</p> <p>○各学年とも、3学期に家庭学習の目安の時間を次学年の時間へと移行していく。</p> <p>○6年生は中学校進学に向け、家庭学習の目安の時間を70分から90分へ、自主学習の1日のページ数を1ページから2ページへ段階的に増やしていく。</p>